

○公立病院経営強化プランの検討状況等について

整理番号	区域	医療機関名	許可病床数(精・感・結除く) (2022.5.1) ※1	主な役割	病床機能報告による病床数 (2021.7.1) ※2	病床機能報告による病床数 (2025.7.1) ※2	施設基準の状況(床) ※3	公立病院経営強化プランの策定予定時期	右記現行プラン以外に公立病院経営強化プランに盛り込む予定の新規事項	参考【令和3年度第1回宮城県地域医療構想調整会議資料「新公立病院改革プランの概要」より再掲】※一部文言の修正あり													
										病院の役割	病院の具体的な将来像	再編・ネットワーク化	今後持つべき病床機能	担う役割※4									
														がん	脳卒中	心血管疾患	精神疾患	救急	災害	へき地	周産期	小児	在宅
1	仙南	公立刈田総合病院	一般 191 療養 191	中核的 二次救急	急性 回復 199 慢性 100 回復 99	急性 回復 199 慢性 100 回復 99	ケア病床 48 回復リハ 51	未回答	未回答	・地域における急性期機能を維持しながら、仙台医療圏へ流出している回復期機能の患者の受け入れを推進すべく、回復期リハビリテーション病床及び地域包括ケア病床の強化を図り、仙南圏域における地域に密着した中核病院を目指す。	・仙南医療圏域において今後ニーズが高まると想定される回復期機能の体制強化を進めながら、退院支援機能の充実を図る。中長期的には在宅医療事業の展開も検討し、病院と在宅の架け橋になる機能性を充実していく。	・医療機能分化の推進については、今後、仙南医療圏内での医療提供体制の在り方を協議する場の設定が望まれる。その協議を踏まえて、平成29年度中に議論の場を設け、病院機能および規模の見直しを継続的に検討していく。	急性期→回復期↑	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
2	仙南	蔵王町国民健康保険蔵王病院	一般 36 療養 10 26	二次救急	回復 36 慢性 10 回復 26	回復 36 慢性 10 回復 26		検討中	未定	・民間の医療機関が存在しない地域における医療の提供を維持し、不採算地区病院となった現在では可能な限り行政と密着した「保健・福祉・医療」の連携を図り、患者の健康を守り、在宅でも安心して生活できる環境を確保していく。	・現状の一般病床と療養病床の併設。外来診療科目を内科とし、訪問診療を継続する。一次医療に徹すると共に、他病院との連携を強化し、間接的に二次医療・三次医療を確保する。「患者送迎バス」の運行を継続する。	・二次医療を行っている「みやぎ県南中核病院」や「公立刈田総合病院」等と連携を行い、住民の医療ニーズに対応した一次医療の救急体制の確保を図る。今後とも相互に適切な機能分担が図れるよう地域連携に努める。	回復期→慢性期→										
3	仙南	みやぎ県南中核病院	一般 310 療養 310	地域支援 中核的 三次救急 二次救急	高度 急性 310 回復 26 慢性 284	高度 急性 310 回復 26 慢性 284		令和5年度	未定	・地域の急性期医療、専門医療、救急医療、がん医療、医療スタッフの研修機能を担当することを目標として運営してきた。	・これまで通り、急性期医療、専門医療、救急医療、がん医療のほかに医療スタッフの研修機能を担当する。	・仙南医療圏における高度急性期、急性期医療の主な担当病院である当院および公立刈田総合病院の病床数は合計約600床である。仙南医療圏として、この600床をどのように利用することが最も有効であるかについて新しい視点(集約化と機能分担)から検討を進める必要がある。地域医療構想の実現に向け、令和2年1月に重点支援区域に指定され東北大学と県の支援を受け、公立刈田総合病院との機能分化・連携に向けて協議中。	高度急性期→急性期→	○	○	○	○	○	○	○	○		
4	仙南	国民健康保険川崎病院	一般 58 療養 30 28	二次救急	回復 58 慢性 30 回復 28	回復 58 慢性 30 回復 28		令和5年3月	予定無し	・地域内医療連携の中心的医療機関であるほか、県南西部の中山間地域における救急医療機関として、二次・三次救急医療機関等へのスムーズな移行体制を構築する役割を有している。	・地域における公的有床医療機関及び二次救急医療機関として、今後とも安定した診療体制を提供するため、現状の病床数を確保しつつ、回復期・慢性期医療を中心とした患者を受け入れ、今後の医療需要にも応えるべく、保健・医療、福祉分野間の連携を更に進め、町民等へ安定的に良質な医療の提供を継続していく。	・町内の民間診療所はもとより、近隣の介護老人保健施設や介護福祉施設等との連携強化を進め、地域包括ケアシステムにおける医療支援にも積極的に参画するとともに、仙南医療圏等におけるその他の医療機関とも当院の役割や機能を活かした形で連携強化に努め、地域医療の充実と医療資源の有効活用を図る。	回復期→慢性期→										
5	仙南	丸森町国民健康保険丸森病院	一般 90 療養 55 35	二次救急	回復 90 慢性 90	回復 90 慢性 55 回復 35	ケア病床 38	令和5年12月	未定	・町内唯一の一次医療を行う基幹的な医療機関として、保健・医療・福祉の連携を図りながら、町民の生命と健康を守るため、良質な医療を安定的に提供するとともに、各種検診・健康づくり事業などの疾病予防、介護予防に積極的に取り組み、地域の医療水準の向上に貢献する。	・当院は、現在の病床数を減少させず、地域のニーズに応え、経営の安定化を図るために、令和2年4月1日に一般病床55床のうち38床を地域包括ケア病床に転換し、稼働を始めた。 ・当院の対象患者は2025年以降に減少することから、引き続き仙南医療圏における病院の役割と病床機能、適正病床数、あるべき姿を検討していく。	・町内で唯一の入院施設を整備した一次医療機関として、一次救急病院としての体制も引き続き継続し、さらに仙南医療圏の二次医療機関と連携を強化して多様なニーズに応えながら、現在の診療体制を継続して良質な医療を提供していく。	急性期→回復期→										
6	仙台	宮城県立こども病院	一般 241 療養 241	地域支援	高度 急性 241 回復 53 慢性 188	高度 急性 241 回復 53 慢性 188		策定済	主なものとしては以下のとおり ・新興感染症への対応 ・医師の働き方改革 ・情報セキュリティ対策	・県の小児専門医療及び小児リハビリテーションの核として、また、東北地方唯一の高度で専門的な小児医療を提供する病院として、急性期から慢性期に至るまでの高度な医療・療育サービスを総合かつ効果的に提供する役割をより積極的に果たす。	・安定した診療体制の構築に努め、県内の医療・福祉・教育機関などとの役割分担及び連携のいっそうの強化を図ることにより、機能を十分に発揮し、県内外の医療・療育の需要に的確に対応していく。	・施設整備については、10年以上の中長期的な大規模修繕を視野に入れた整備計画を策定し、計画的に実施する。県内外の医療・療育機関等に対する情報発信の強化に努めるとともに、ICUの活用等により、県内外の医療機関との連携や療育関係機関との連携を推進し、紹介率・逆紹介率の維持・向上及び登録医療機関・登録医の増加に努める。	高度急性期→急性期→	○	○	○	○	○	○	○			
7	仙台	仙台市立病院	一般 467 療養 467	地域支援 三次救急 二次救急	高度 急性 467 回復 180 慢性 287	高度 急性 467 回復 180 慢性 287		令和5年度	検討中	・従来から地域の中核病院として地域完結型医療を推進しており、その中心的役割を担う「地域医療支援病院」の承認を受けている。移転後も周辺の医療機関との連携を強化し、より高度な医療を必要とする紹介患者の診療に力を入れていくとともに、登録医との施設・設備の共同利用や地域の医療従事者に対する研修の実施等にも取り組み、地域医療支援病院としての役割を果たしている。	・高度急性期医療機関として地域医療に貢献する立場を目指すと同様に、自治体病院としての役割を引き続き担うべく、政策的医療の充実と、地域医療支援病院として地域の医療機関との連携の取り組みを一層推進していく。	・回復期や慢性期病床を持つ他の医療機関や在宅医療を担う地域の診療所、介護施設等と一層の連携を図りつつ、今後とも高度急性期医療機関として、地域の中核病院の役割を担っていくため、関係者に対し必要な働きかけを行っていく。	高度急性期→急性期→	○	○	○	○	○	○	○			
8	仙台	塩竈市立病院	一般 161 療養 161	二次救急	急性 回復 161 慢性 71 回復 90	急性 回復 161 慢性 71 回復 90	ケア病床 90	令和5年度	未定	・一般病床、地域包括ケア病床と合わせて急性期から回復期、慢性期まで対応できる環境を有している。また、二市三町圏域で唯一、在宅療養支援病院の認定を受けて、訪問診療や訪問看護、訪問リハビリテーションなどの在宅医療を積極的に実施しており、地域包括ケアシステムの構築において果たすべき役割の増加が見込まれる。	・急性期病床の維持と積極的な救急患者の受入継続。地域包括ケア病床の運用による在宅復帰支援の充実、慢性期医療の提供維持。在宅医療の充実。	・地域包括ケアシステムの構築等を見据えて、平成27年6月より3階の一般病床42床を地域包括ケア病床に転換、更に令和元年10月には病床機能見直しを実施し2025年7月1日時点病床数を既に構築した。 今後とも、地域住民の利便性維持のため、一定規模の診療科を維持しつつも、新設または維持が困難な診療科については近隣病院との連携により、その医療機能の確保を目指す。	急性期→回復期→	○	○	○	○	○	○	○			
9	仙台	宮城県立がんセンター	一般 383 療養 383		急性 383 慢性 383	急性 383 慢性 383		令和5年2月	主なものとしては以下のとおり ・機能分化・連携強化 ・医師の働き方改革 ・経営形態の見直し ・新興感染症の感染拡大時等に備えた平時からの取組	・がんの種類や患者の状態に応じて、手術療法、放射線療法、化学療法、又はそれらを効果的に組み合わせた集学的治療など、最適な治療を提供する。また、集学治療棟において、PETによる検査及びトモセラピーによる放射線治療に加え、外来化学療法の実施により、集学的治療を一層推進する。	・手術療法においては、手術支援ロボット、3D内視鏡手術システムなどを用いて低侵襲化を推進し、患者負担の少ない治療を提供する。 ・令和元年9月に開設したがんゲノム医療センターを中心に、がんゲノム医療に関する正しい情報や知識を収集し、県民への情報提供や普及啓発を行うとともに、東北大学と連携し、質の高いがんゲノム医療を提供する。 ・多職種で構成する緩和ケアチームにより、精神的ケアも含めた緩和ケアを推進する。また、がん患者の在宅療養を支援するため、地域のがん患者療養支援ネットワークと連携し、患者及びその家族のQOL(クオリティオブライフ)の向上を推進する。	・高度先進医療を提供するため、計画的に医療機器の導入及び更新を行う。また、建設後28年を経過し、劣化した病院本体の施設設備の改修工事については、県において実施した有り方検討の結果を踏まえて適切な対応を行う。また、地域連携クリティカルパスの充実やICUの活用を推進し、地域の医療機関との連携に努める。	急性期→	○									
10	仙台	公立黒川病院	一般 170 療養 110 60	二次救急	急性 回復 170 慢性 110 回復 60	急性 回復 170 慢性 110 回復 60	ケア病床 55 回復リハ 60	検討中	未定	・黒川地域(4市町村)において、唯一の公立病院として、急性期医療、回復期医療、在宅医療、予防医療を提供し、地域に密着した医療機関としての役割を担ってきた。	・急性期病床の維持と積極的な救急患者の受入継続。在宅医療の充実。高齢者医療の提供。予防医療の充実。	・今後とも、地域住民の利便性維持のため、一定規模の診療科を維持しつつも、新設または維持が困難な診療科については近隣病院との連携により、その医療機能の確保していく必要がある。	急性期→回復期→	○	○	○	○	○	○	○			
11	大崎・栗原	大崎市民病院	一般 494 療養 494	地域支援 中核的 三次救急 二次救急	高度 急性 494 回復 44 慢性 450	高度 急性 494 回復 44 慢性 450		令和5年度	未定 令和4年度中に設置する「大崎地域公立病院経営強化プラン策定調整協議会」で検討予定	・救命救急センター、地域がん診療連携拠点病院、災害拠点病院、臨床研修指定病院、地域医療支援病院等の指定を受け、県北の基幹病院としての医療機能の整備を行ってきた。	・今後県北地域の基幹病院及び大崎市民病院事業の中核病院として現行の医療体制を維持するとともに、更なる医療の質の向上を目指し、高度医療、急性期医療に特化した病院としての機能を拡充していく。	・限られた医療資源を有効に活用する観点から大崎・栗原医療圏全体の今後の高齢化や疾病構造の変化、医師を中心とした医療スタッフの充足状況、診療報酬の改定動向などの地域医療を取り巻く環境の変化を見定めながら、他の自治体病院との役割分担に応じた機能分化とその有機的な連携、協力体制のあり方について必要に応じ協議・検討をしていく。	高度急性期→急性期→	○	○	○	○	○	○	○			
12	大崎・栗原	大崎市民病院鹿島台分院	一般 58 療養 40 18	二次救急	回復 58 慢性 40 回復 18	回復 58 慢性 40 回復 18	ケア病床 18	令和5年度	未定 令和4年度中に設置する「大崎地域公立病院経営強化プラン策定調整協議会」で検討予定	・大崎・栗原医療圏における「回復期・慢性期」医療を中心に鹿島台地域のかかりつけ機能を担う。急性期治療を経過した患者や療養を行っている患者等の受入れ及び患者の在宅復帰支援等の機能を有する地域包括ケア病床の設置を検討する。	・大崎・栗原医療圏における「回復期・慢性期」医療を中心に岩出山地域のかかりつけ機能を担う。急性期治療を経過した患者や療養を行っている患者等の受入れ及び患者の在宅復帰支援等の機能を有する地域包括ケア病床の設置を検討する。	・限られた医療資源を有効に活用する観点から大崎・栗原医療圏全体の今後の高齢化や疾病構造の変化、医師を中心とした医療スタッフの充足状況、診療報酬の改定動向などの地域医療を取り巻く環境の変化を見定めながら、他の自治体病院との役割分担に応じた機能分化とその有機的な連携、協力体制のあり方について必要に応じ協議・検討をしていく。 ・H30、介護療養病床12床減床。	急性期↓回復期↓ 慢性期→										
13	大崎・栗原	大崎市民病院岩出山分院	一般 40 療養 40	二次救急	回復 40 慢性 40	回復 40 慢性 30 回復 30	ケア病床 18	令和5年度	未定 令和4年度中に設置する「大崎地域公立病院経営強化プラン策定調整協議会」で検討予定	・地域密着型の病院として主に慢性期疾患を主体とする高齢者の一般医療のほか、二次救急を含む初期医療や在宅医療を行ってきた。現在の常勤医師数は2人となっており、本院等からの診療応援により地域医療を確保している状況。	・「回復期・慢性期」医療を中心に岩出山地域のかかりつけ機能を担う。急性期治療を経過した患者や療養を行っている患者等の受入れ及び患者の在宅復帰支援等の機能を有する地域包括ケア病床を運用し、地域における高齢化率が高くなるため、リハビリテーション機能の充実を図る。	・限られた医療資源を有効に活用する観点から大崎・栗原医療圏全体の今後の高齢化や疾病構造の変化、医師を中心とした医療スタッフの充足状況、診療報酬の改定動向などの地域医療を取り巻く環境の変化を見定めながら、他の自治体病院との役割分担に応じた機能分化とその有機的な連携、協力体制のあり方について必要に応じ協議・検討をしていく。 ・R3、一般病床10床減床。	急性期↓回復期↓										
14	大崎・栗原	大崎市民病院鳴子温泉分院	一般 40 療養 40	二次救急	回復 40 慢性 40	回復 40 慢性 40	ケア病床 14	令和5年度	未定 令和4年度中に設置する「大崎地域公立病院経営強化プラン策定調整協議会」で検討予定	・一般医療のほか二次救急を含む初期医療や在宅医療を行い、地域医療を支えてきた。8診療科目を擁し、回復期リハビリテーション病床を中心に力を入れてきたが、現在は、人口減少等の影響により入院患者数が減少しつつある。	・今後の人口減少を踏まえた「地域医療」のあり方を考慮しつつ、適正規模の病床を備えた病院の建替えを行う。診療機能としては、一般診療、救急医療、在宅医療を担うとともに、地域包括ケア病床を運用していく。	・限られた医療資源を有効に活用する観点から大崎・栗原医療圏全体の今後の高齢化や疾病構造の変化、医師を中心とした医療スタッフの充足状況、診療報酬の改定動向などの地域医療を取り巻く環境の変化を見定めながら、他の自治体病院との役割分担に応じた機能分化とその有機的な連携、協力体制のあり方について必要に応じ協議・検討をしていく。 ・今後、段階的に病床規模と機能を見直し、R3(新築建替)までには一般病床40床に減床。	急性期↓回復期↓ 慢性期↓										

※1：東北厚生局「届出受理医療機関名簿」の病床数を記載
 ※2：令和3年度病床機能報告の値を記載
 ※3：東北厚生局「届出受理医療機関名簿(届出項目別)」において、【ケア病床：地域包括ケア病床入院科】、【ケア病床：地域包括ケア入院医療管理科】、【回復リハ：回復期リハビリテーション病床入院科】を掲げている病床数
 ※4：第7次宮城県地域医療計画をもとに医療機関の実態に応じて記載

